

平成22年度事業報告書

自平成22年4月1日

至平成23年3月31日

I 事業活動の概要

環太平洋学術研究奨励事業、北京日本学研究センターとの協賛事業、大平正芳生誕百年記念事業の一環としての『大平正芳全著作集』発刊事業、「大平正芳記念財団の事業」パンフレット及び「大平正芳記念財団レポート」発行事業、及び大平正芳記念館運営事業を以下の通り実施した。

1 環太平洋学術研究奨励事業

- [1] 第26回大平正芳記念賞 5件と特別賞1件 クリスタル牌、賞金
550万円
- [2] 第24回学術研究助成費 2件 助成費 200万円
平成22年6月11日に上記の授賞式を日本工業倶楽部で行いました。

2 北京日本学研究センターとの協賛事業

開設から8年目となる「大平コーナー」運営推進事業の一環として、

- (1) 2010年10月16日(土) 9:00~20:00
(於：北京外国語大学逸夫楼3階講堂)

「北京日本学研究センター創立25周年・大平学校創立30周年記念国際学術シンポジウム」に出席、その中で、「第六回日本語優秀学位論文大会」授与式、「第一回～第五回日本語優秀学位論文集」発刊式を開催、並びに記念レセプションに出席した。

- ①シンポジウムの開幕にあたり、同センターの主任より、中国、日本、韓国、アメリカ、フランス、イギリス、ベトナム及び台湾、香港などの国や地区から日本学の研究者を中心に200人が参加している、との紹介があった。

- ②当財団を代表して、大平知範評議員より、
- ・祖父大平正芳が他界した年に北京日本学研究中心の前身である、通称大平学校が開設された。
 - ・爾来30年の間に同センターの中には、「大平コーナー」「大平文庫」が設けられ、そして、毎年のごとく同センターとの共同事業が執り行われている。
 - ・本年は「大平学校」設立30周年を記念して、第1回～5回の全29日本語優秀学位論文をまとめて、『日本語優秀学位論文集』を発刊することとした。
 - ・2009年10月に開催した大平正芳生誕百年記念「大平正芳と日中関係」国際シンポジウム記念論文集の発刊、「日本学術名著翻訳・出版事業」等の共同事業も含めて同センターのますますの発展に寄与して参りたい。
旨の挨拶を行った。
- ③北京外国語大学の陳雨露学長は挨拶の中で、
- ・現在までに、中国において日本語教育の中核を担う人材として、大平学校で600名、北京日本学研究中心で900名、合計1,500名におよぶ人材を輩出している。
 - ・中日両国民の信頼関係と相互理解を築く上で、まずは言葉の勉強が重要である。
 - ・その意味で、北京日本学研究中心は、中国における日本学研究中心の最高峰としてひとつのブランドを確立しており、アジア地域にとどまらず、世界範囲へとその力が発揮されることが期待されている。
とのお話を披露された。
- ④「第六回日本語優秀学位論文大会」は、多くの応募者の中から入賞者6名(全員女性)に賞状と記念品の授与を行った。

(2) 記念レセプションの開催

会場を移して、記念レセプションが開催された。約200名の参加者があり、盛況であった。

なお、17日18時30分より、「北京日本学研究中心及び大平学校同窓会」が予定されていたが、当財団関係者が出席できないことから、当レセプション席上で代表者(10名程度)と、大平知範評議員を中

心に、懇談及び記念写真の撮影を行った。

- (3) 北京市内の日中友好関係組織に対する『大平正芳全著作集』の寄贈シンポジウムの期間中に、北京市内の日中友好関係組織(下記4団体)に対し、『大平正芳全著作集』の寄贈を行った。

【寄贈先】

- ①北京日本学研究中心、②中国人民対外友好協会、③中国日本友好協会、④中国国際交流協会

なお、上記とは別に、当財団白西評議員を通じて、中国政府、中国共産党関係者3名に対し『大平正芳全著作集』の寄贈を行った。

3 『大平正芳全著作集』発刊事業

大平正芳生誕百年記念事業の一環として、平成22年9月に第2巻を、平成23年1月に第3巻を発刊した。

当初の予定では、6ヶ月ごとに発刊の予定であったが、最終7巻までの発刊完了を少しでも早めるべく、監修対応の早期化を図り、第3巻以降、4ヶ月ごとの発刊に早めることとした。

なお、当著作集の一層広範な普及を目的に、当財団あて直接申込の方に対して、特別価格での頒布を実施しているが、本年度末までの申込状況は、累計で55個人・団体、68部となっている。

また、書店流通分について、出版社からの情報によると、平成22年11月時点で、第1巻について、337部の販売実績の様相、とのことであった。

4 「大平正芳記念財団の事業」パンフレット及び「大平正芳記念財団レポート」発行事業

(1) 「大平正芳記念財団の事業」パンフレット関係

- ①「大平正芳記念財団の事業」パンフレット

- ②「大平正芳記念財団の事業活動」(平成21年6月から同22年5月まで)リーフレット

(2) 「大平正芳記念財団レポート」第28号

5 大平正芳記念館運営事業

当記念館について、平成22年5月14日付で観音寺市宛要望書並びに寄附申出書を提出した。その後、同市総務部を窓口として、寄附に係る諸条件の確認を行ってきたが、あくまでも無条件での受け容れとする市側と不調の結果となり、同年11月10日付文書で同市宛に、本寄附案件について申出を一時留保とさせていただく旨の通知を行った。

当記念館については、平成22年3月末をもって館長職を廃止とし、4月以降、嘱託職の女性2名にて管理を行っているが、本年度月平均の来館者は152名(前年度月平均91名、前年度比167%)の実績であった。

6 その他(大平正芳生誕百年関連イベントへの参画)

(1) 大平正芳総理生誕百年追想茶会への参画

平成22年10月3日、香川県栗林公園において、国際ソロプチミスト香川クラブ実行委員会主催により、大平正芳総理生誕百年追想茶会が開催されました。当財団からは、出席者あて御礼状に大平理事長の挨拶文並びに大平元総理の略歴を寄稿するとともに、会場で大平正芳著書及び研究書の展示を行った。当日は、森田芳子氏が挨拶され、出席者全員で故人を偲んだ。

(2) 大平正芳生誕百年記念「桜美林大学・北京日本学研究中心共同シンポジウム」関係図書出版への参画

平成22年7月23日と同月26日に行われた、大平正芳生誕100周年記念 北京日本学研究中心・桜美林大学北東アジア総合研究所の共同シンポジウム、報告会の内容をまとめた図書、『大平正芳からいま学ぶこと一日中関係、教育と人材育成 連携の時代』が発刊され、大平理事長より「発刊に寄せて」を寄稿した。シンポジウムでは、当財団の福川伸次監事、堤清二(筆名：辻井喬)、白西紳一郎両評議員が講演を行った。

Ⅱ 本年度中の主な庶務事項

1 理事会、評議員会

平成22年6月11日開催

- (1)平成21年度事業報告書及び収支決算報告書承認の件
- (2)平成22年度事業計画書及び収支予算書承認の件

平成23年1月27日開催(臨時)

- (1)一般財団法人へ移行認可申請の件
- (2)最初の評議員を選任する方法案の件
- (3)最初の評議員候補推薦の件

2 運営・選定委員会

本年度中に計4回開催し、第27回大平正芳記念賞・第25回学術研究助成費の授賞作を決定した。

3 主務官庁関係事項

平成22年6月21日

外務大臣に対し、平成21年度事業報告書及び収支決算報告書、並びに平成22年度事業計画書及び収支予算書を提出した。

平成23年3月3日

外務大臣に対し、最初の評議員の選任に関する理事の定め認可申請を行った(4月21日付認可取得)。

4 登記事項

特になし。